

デジタル機器の導入

当財団では、発掘調査や整理作業においてデジタル技術を応用した機器の導入を図っています。発掘調査では「平板」や「巻尺」を使った手作業の測量が中心ですが、今後、デジタル化により発掘調査の一層の効率化、迅速化を目指していきます。



「光波測距儀」(こうはそっきょぎ)は光波を発射して距離を自動計算する機器で、特に複雑な斜面等にある遺構の実測や多量の出土品の取り上げ作業等に有効です。

当財団では光波測距儀のデータをパソコンに転送する機能を持つ「トータルステーションシステム」を取り入れ、完全デジタル化を試行しています。



整理作業においては実測図等をスキャナーでデジタル化し、トレース、編集等をパソコン上で行っています。

これにより整理工程の大幅な効率化、報告書作成費用の軽減等が図られます。

また、埋蔵文化財の貴重なデータがデジタル化されることにより、これまで以上の長期保存、普及活用が可能となります。

